



関川村やまゆり大学

教育長 津野庄一郎

「寺社の文化的な価値を認識する手立てとして新たな文化資産を創出することは、今後の文化財継承のためにも必要不可欠なことではないか」と永吉秀司（新潟大学教育学部准教授）氏は述べています。（出典：祈り-引き継がれていくもの-永吉秀司日本画作品集・新令和版弘長寺来迎図解説）

女川の蛇喰集落に弘長寺（浄土宗）という寺院があります。760年余の歴史をもつ由緒あるこのお寺。近年の修繕で本殿にあった壁画が、白壁に塗り替えられてしまい、それを何とか再現したいというご住職夫妻や地元の願いから、2017年から永吉氏による極楽浄土や来迎芸術壁画の制作がはじまったと言います。時空を超えたこの貴重な文化財は、一見の価値ありです。

今年の関川村やまゆり大学の開校式と第1回講座は、弘長寺の本堂を会場に行われ、50名余が集い、永吉氏の制作にかける思いやお考えを解説付きでお聞きしました。参加者からは「絵の説明や画材の説明までわかりやすく聞くことができました。お庭も素晴らしかったです。10年後の壁画の完成が楽しみ」という声も聞かれました。人口減少が進み、関川村の様子も変わりつつありますが、年齢を問わず学び続ける姿は、若い世代や子どもたちのよき手本となり、励みとなるに違いありません。

ヤマユリは関川村の花。その花言葉は、「荘厳」「高貴な品性」「飾らない愛」「人生の楽しみ」などとあります。入学された学生の皆さんお一人お一人の人生もまた、ヤマユリのように美しく輝き、やりがいや生きがいにつながることを切に願います。

<【写真】令和7年5月22日：弘長寺で蓮図を解説する永吉秀司氏>